

# ひょうぶ「企業探訪」③

2021 学生が聞く

## 冷凍技術で弁当販売好調

1889（明治22）年、開通直後の山陽鉄道（現JR山陽線）姫路駅構内で弁当の販売を始めた。和風だしに中華麺の「えきそば」も支持される老舗だが、冷凍技術を生かした商品開発やデザイン性の高いパッケージの提案など、新機軸を次々と打ち出す。立命館大学の西岡正教授のゼミ生が竹田典高社長を訪ねた。

—130年を超える歴史があります。

「幼い頃から線路に足をつけて寝るなど言われたぐらいい、国鉄・JRとは関わりの深い会社です。駅弁を作る事業者だけに許された『駅弁マーク』はブランドです」

「創業者は料理屋でした。姫路に鉄道が開通し、それまで主流だったおにぎりに

### まねき食品（姫路市） 竹田典高社長（40）



まねき食品の竹田典高社長（左）を訪ねた立命館大3年の川村優奈さん（中央）と下山凛さん（右）も姫路市北条

代わり、経木という薄い木の板でできた折り箱入り弁当を売りました。日本初の幕の内駅弁です」

—現在も新しいことにチャレンジしていますか。

「弁当の折り箱を作る部門を別会社化したシヨウワパッケージは、木と紙を組み合わせたデザイン性の高い容器が注目されています。地球に優しい素材で、洋菓子などとも相性が良いですね。これまでは注文を待っていました。自社で企画し、シヨールームも作っていききたいです」

—コロナ禍の影響は。



新商品の冷凍弁当（手前）と冷凍えきそば。奥は定番のカップ麺

**×モ** 従業員380人、資本金6700万円、売上高は非公表。神戸、大阪でも企業向け弁当や店舗運営を手掛ける。今春の採用実績は大卒2人。来春予定は大卒2人、高卒2人。姫路市北条953。☎079・224・0255



「店舗販売や仕出しは落ち込みましたが、冷凍技術を生かして電子商取引（EC）に注力しています。冷凍の弁当を昨年末に発売し、好調です。添加物が少なく、作りたてに近い状態で召し上がってもらえるのが利点。冷凍、加熱してもよりおいしくなるよう工夫を続け、駅などで無人販売の可能性も探ります」

—求める人材は。

「若手にもどんどん仕事を任せます。既存の事業もECなどの新規事業も、前向きに取り組める人と仕事をしたいですね」

（まとめ・高見雄樹）